

< 高付加価値型農業の実践を行っている事例 >

瑞浪市平山集落の特産品づくり

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	みずなみしかまとちょう ひらやま 岐阜県瑞浪市釜戸町 平山			
協定面積 14.7ha	田(100%) 水稲	畑	草地	採草放牧地
交付金額 307万円	個人配分			43%
	共同取組活動 (57%)	共同農業活動(マコモ等の生産)		40%
		共同機械備品等の購入 その他		7% 10%
協定参加者	農業者 20人			

2. 取組に至る経緯

本集落では平成12年度から前期対策に取り組んでいたが、農用地を維持管理しただけでは、交付金が尽きた時点で共同活動が終わってしまうという懸念があった。そんな中、付加価値・収益性の高い作物栽培や活動に取り組むことによって活動の継続が可能になると考えた。

前期対策の活動から、集落での農用地維持、集落保全への関心が高まっており、定年退職を間近に控えた団塊の世代の労働力を見越して、管理から生産への転換を目指した。集落の将来ビジョンの話し合いの材料として、後継者がおらず耕作放棄地になると思われる農地を、地図上で色分けするなど改めて集落点検を行い、集落の問題を顕在化した。また、本集落に合った作物や付加価値を高める活動に向け、情報収集をおこなった。

3. 取組の内容

- ・市の特産品である「みずなみの芋(やまといも)」の作付け。
- ・平山から発信する新たな瑞浪市の特産品「マコモタケ」の作付け。
- ・あわせて「マコモタケ」の加工、直売販売等の取り組み、生産組合の設立。
- ・休耕水田の牛放牧への利用(地区内外の畜産農家と連携)。



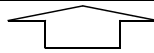
耕作放棄地等の予測図

作成した集落ビジョン

マコモタケの植え付け

[集落の将来像]

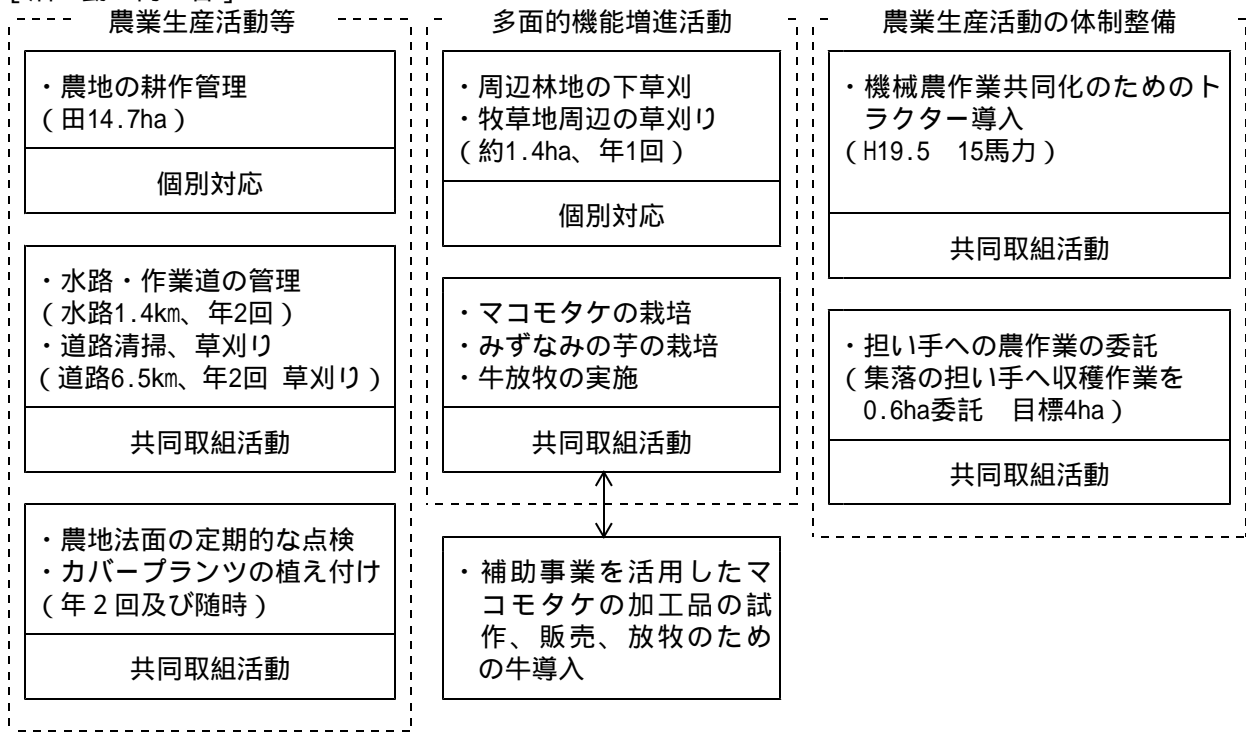
- ・平山集落組織を農地管理集団から生産集団への展開を図る。
- ・遊休農地を活用した付加価値の高い農業生産を行う。
- ・畜産農家と連携し、有機栽培等による生産体制を確立する。



[将来像を実現するための活動目標]

- ・集落営農組織体制づくりに向けた活動計画の策定
- ・整備すべき遊休農地の整備方針の検討
- ・高付加価値農産物生産に向けた取り組み
- ・農産物の販売ルート確立に向けた取り組み
- ・共同化作業に向けた取り組み

[活 動 内 容]



4 . 取組による変化と今後の課題等

- ・組織活動では、団塊の世代だけでなく、地域のお年寄りの協力が絶大で、集落を全体を巻き込んだ活性化が図られた。
- ・みずなみの芋、マコモタケについては栽培が定着したが、生産物の安定販売や収益性を高めるための加工品の開発が課題である。
- ・牛放牧については、中山間地域にマッチした活動であり今後の拡大が期待できるが、そのための放牧期間の長期化など技術的課題をクリアする必要がある。

[平成20年度までの主な成果]

- 放牧による遊休農地の活用 (H20実績 140a)
- 高付加価値農産物の導入 (みずなみの芋 10a、マコモタケ 60a)
- 集落営農組織体制の強化 (集落活動への参加 20名)